

わたしのいばしょ  
みんなのいばしょ

～とくしま子どもの居場所づくり～

 2022 



社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会





## はじめに

子どもは、社会を映す鏡である——長期化したコロナ禍で深刻化した社会的孤立などの先の見えづらい社会情勢は、子どもたちが育つ環境として非常に厳しい状況といえます。天災や事故、事件のニュースを目にすることも多い現代では、安心して安全な子どもの居場所に、大人の存在が欠かせなくなっています。学校の終わる放課後、公園や路地裏で小学生が遊ぶ楽しそうな姿を見ることは、少なくなりました。子どもたちだけで自由に遊ぶことができた時代は、過去のものとなりつつあります。市町村や県の事業の一環として実施されている居場所はもちろん、地域の中に、子どもの豊かな育ちを願って運営される居場所が多く存在することが、子どもたちの、そして私たちの明るい未来に繋がります。

社会福祉法人徳島県社会福祉協議会では、令和元年12月、県内の篤志家からの御寄付を基に“とくしま子どもの居場所づくり推進基金”を創設し、子どもたちが安心して参加できる「子どもの居場所」の拡充に向けた資金支援を行うとともに、地域住民が交流を深める場の拡充や地域全体の福祉力の向上を目指しています。この冊子は、子どもの豊かな育ちを地域で見守る「子どもの居場所」づくりを推進していく目的で作成しました。

この冊子では、県内にある「子どもの居場所」や「子どもの居場所」を支える人々を紹介しています。「今日も楽しかったな」「この地域に生まれ育ってよかったな」と子どもたちが自然に感じることができ、地域の誰もがほっとできる、「つながる場」「見守る場」「支えあう場」となっている「子どもの居場所」が、この冊子を

手にした方から広がっていくことを願っています。



# Contents



## 04 「子どもの居場所」ってどんなところ？

### 05 徳島県における「子どもの居場所」

- 06 01 料理学習 つむぎ
- 07 02 社会福祉法人 あさがお福祉会
- 08 03 ファミリースペース富田運営委員会
- 09 04 親子サークルつちからき
- 10 05 The Third Place
- 11 06 沖洲放課後クラブ
- 12 07 友愛クラブ「ともしび」
- 13 08 なるとにしてとてとて
- 14 09 黒崎地区女性会
- 15 10 一般社団法人ひとみ学舎
- 16 11 子育て応援隊！キッズステーション NARUTO
- 17 12 新開放課後子ども教室 ポコ
- 18 13 特定非営利活動法人子ども夢つむぐ
- 19 14 特定非営利活動法人べんざいてんのお家
- 20 15 子どもゆめスクエア
- 21 16 子育てグループおちくぼ物語
- 22 17 社会福祉法人 共生会
- 23 18 特定非営利活動法人あわ・みらい創生社
- 24 19 ニコニコこども食堂
- 25 20 遊び場プロジェクト
- 26 21 すまいるきっず+
- 27 22 あえるば上勝事務局
- 28 23 Nagomi ラボ
- 29 24 特定非営利活動法人リーフ
- 30 25 那賀町を良くする会
- 31 26 特定非営利活動法人牟岐キャリアサポート
- 32 27 あまべの杜

### 33 社会福祉法人徳島県社会福祉協議会「子どもの居場所」づくりの推進に向けた取り組み

### 34 座談会情報「これから子どもの居場所づくりをはじめめる方に向けたエール」

### 40 安全で安心な居場所づくり情報

### 42 徳島県「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン

### 43 社会福祉法人徳島県社会福祉協議会情報



## 「子どもの居場所」って どんなところ？

「居場所のない子どもたち」、「貧困の中にある子どもたち」と聞いて、皆さんはどのようなイメージを持たれるでしょうか。教室の中の7人に1人の子どもが貧困——「見えない貧困」と言われるように、学校や地域の中でも周囲に気付かれず、十分な支援に繋がっていない子どもたちもいます。また昨今では放課後の過ごし方に困り、家の中で一人過ごす子どもも少なくありません。全ての子どもたちが明るい未来を信じ、自分の足で歩き出したいと思う気持ちを持つためには、多くの人に出会い、たくさんの経験をし、様々な困難や課題を乗り越え、自分で自分の未来を切り拓いていく力を身につける必要があります。

「子どもの居場所」とは、『地域の大人との継続的な交流ができる、子どもたちにとって安全で安心な居場所であり、信頼関係のもとでの様々な活動を行う中で、すべての子どもたちが夢や希望をもって健やかに成長していける場である。原則として、18歳に満たないすべての子どもや家庭を、地域で見守る子どもたちの居場所である。』（『徳島県「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン』令和元年5月29日策定）です。「子どもの居場所づくり」は、1990年代から重要視され、当初は少子化対策や子育て支援の一環として、また地域社会の希薄化といった問題意識から始まりました。近年は、そういった問題意識に加え、「子どもの貧困」対策としても重要視されるようになってきました。「子どもの貧困」とは生命の存続が脅かされるような飢餓状態にあること（「絶対的貧困」）だけでなく、子どもたちが成長し発達する上で必要な資源が十分でない状態（「相対的貧困」）のことを指しています。物質的な不足や経済的

な困難に加え、経験や人との関わりの足りなさについても「貧困」と表現します。

「子どもの貧困」や「子どもの居場所づくり」に注目が集まった背景には、2015年の国連サミットにおいて、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」として、17のゴールが示されたことが関係しています。17のゴールの1番が「貧困をなくそう」です。また、「子どもの居場所づくり」がすべての子どもたちに、家庭や地域社会の中で安心安全に、そして健やかに過ごせる居場所を準備することを目指しているという点において、3番「すべての人に健康と福祉を」や4番「質の高い教育をみんなに」、11番「住み続けられるまちづくりを」、17番「パートナーシップで目標を達成しよう」なども関連しています。日本においても、2015年より「子どもの未来応援国民運動」として、子どもの貧困対策や子どもの豊かな育ちと未来を保障する運動を広く展開しています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



▲ 子どもの居場所づくりに関連する目標

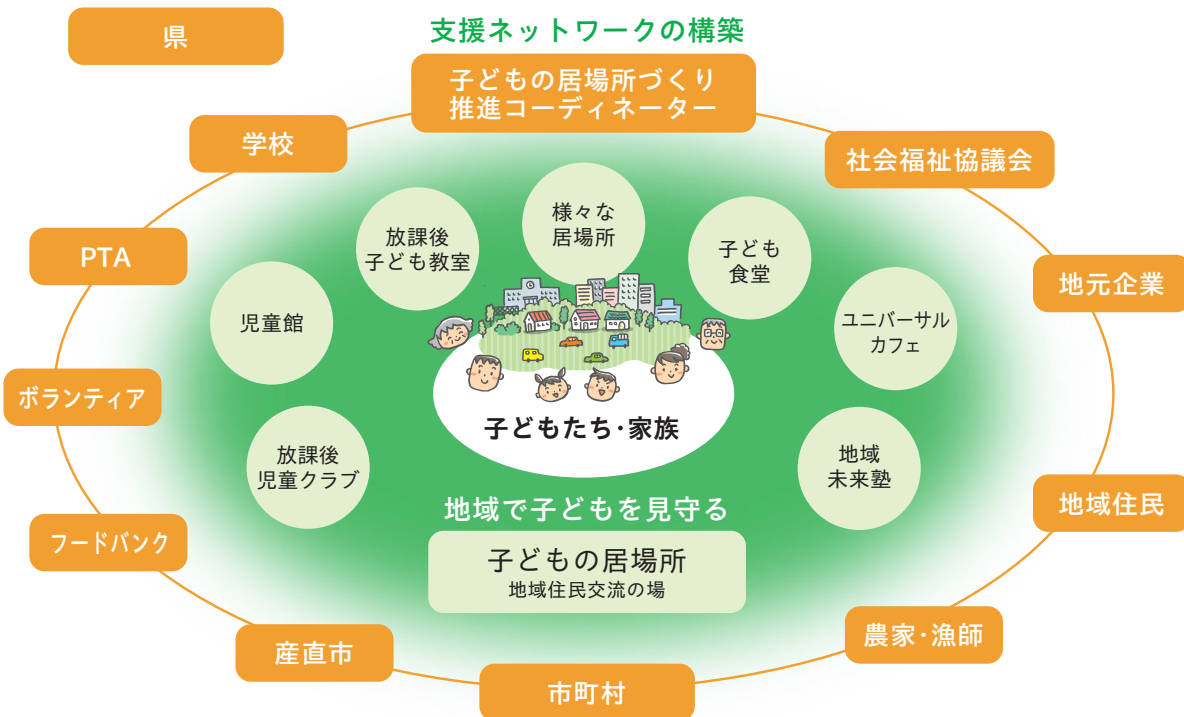


## 徳島県における 「子どもの居場所」

徳島県内にある子どもの居場所には、福祉行政や教育行政の一環として設置されている子どもの居場所（例えば放課後児童クラブや児童館、放課後子ども教室、子育て支援拠点、地域未来塾、子どもの生活・学習支援事

業など）や、民間主導で進められる子どもの居場所（子ども食堂・ユニバーサルカフェ・フリースクール・プレイパーク・子ども会・青少年活動団体など）、そのほかにも様々な居場所が存在しています。

### 広域的な支援バンクを設置



#### 放課後児童クラブ（学童保育）

保護者が仕事などで、昼間家庭にいない子どもを対象に、放課後に小学校の余裕教室や児童館などを利用して生活や遊びの場所を提供し、子どもの健全な育成を行っています。

対象児童…小学生（利用するために登録が必要です。）

開所日…平日・夏休みなどの長期休暇など  
開所時間…下校時から午後6時頃（夏休みなどは、1日開所する場合があります。）

※開所日や開所時間は、クラブによって異なります。  
問い合わせ…市町村の児童福祉担当課もしくは各クラブ

引用…徳島県はぐくみ支援ポータルサイト  
「とくしまはぐくみネット」  
<https://www.tokushima-hagukumi.net/>

#### 児童館

児童館は子どもたち（0歳～18歳未満の児童）の「遊びの場」として県や市町村が設置しています。

特色は各児童館によって様々で、開館時間や施設の様子、設備や開催イベントなど児童館ごとに違います。広い庭やボール遊びができる遊戯室があった

り、避難訓練や阿波踊り教室を行っている児童館もあります。

児童館では異なる年齢の子どもと一緒に遊ぶので、子どもたち自身の自主性・主体性・創造性・社会性などがはぐくまれます。

引用…徳島県はぐくみ支援ポータルサイト  
「とくしまはぐくみネット」  
<https://www.tokushima-hagukumi.net/>

#### 放課後子ども教室

小学校の余裕教室等を活用して、地域の多様な方々の支援と協力を得て、子どもたちと共に学習やスポーツ・文化活動等の取り組みを行います。具体的な活動内容は各地域によって様々です。

引用…徳島県はぐくみ支援ポータルサイト  
「とくしまはぐくみネット」  
<https://www.tokushima-hagukumi.net/>

#### 地域子育て支援拠点事業

公共施設や保育所、認定こども園、児童館、空き店舗等の地域の身近な場所で、乳幼児のいる子育て中の親子の交流や育児相談、情報提供等を実施する事業です。

引用…徳島県はぐくみ支援ポータルサイト

「とくしまはぐくみネット」

<https://www.tokushima-hagukumi.net/>

#### 子ども食堂

「子ども食堂」は、「子どもたちに無料または低価格で食事を提供し、子ども一人でも入れる食堂」であり、地域の多世代交流拠点といわれています。

引用…徳島県はぐくみ支援ポータルサイト  
「とくしまはぐくみネット」  
<https://www.tokushima-hagukumi.net/>

#### ユニバーサルカフェ

##### （徳島県版ユニバーサルカフェ認定制度）

徳島県では、子ども、高齢者、障がい者、外国人などが集う拠点のうち、一定の基準を満たした拠点を「ユニバーサルカフェ」として認定し、県ホームページや地域情報紙への掲載を通じて、利用者の拡大さらには絆づくりを推進しています。

「ユニバーサルカフェ」は社会福祉法人やNPO法人等が運営しており、集まった全ての人がお互いに「支え」「支えられる」関係性を構築できるように、趣向を凝らした取り組みを実施しています。

引用…徳島県ホームページ  
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/>



# 01 料理学習 つむぎ



住 所 徳島市

代表者 大杉 麻弥

## 団体の活動目的



「美味しい<sup>かける</sup>×楽しむ = おいしむ」  
 子どもたち1人1人の食のあり方、学校での学びや  
 気づきが実現できる成功体験ができる。またグルー  
 プや、何人かでやることで、思いやりや助け合いが体得  
 できる。ボランティアとして入ってくださる大人との  
 関わりや、地域の方との関わりなど、社会的環境の実  
 現に取り組む。

## 実施方法



開催日：月に1回4時間程度  
 場 所：1人でも多くの方々に知っていただき、子  
 も食堂や居場所を広げるため各公民館や施設  
 で開催。  
 地域交流・異年齢交流・大人や年配の方々との交流・  
 防災・文化・地域との関わりを学ぶ。料理以外の生活  
 をするための学びセミナーを開催。

## コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



参加者やボランティアの体調管理や、連絡先登録。  
 会場によっては人数制限を設け、空気の入替えを  
 した。  
 集合型での飲食は避けて、持ち帰りとした。

## 助成金を活用した結果・成果



料理教室で使う器具を購入して、子どもたちが体験  
 できる幅が広がった。  
 また、感染拡大予防や、食の安全性が保てた。さら  
 に子どもたちが普段経験したことがない内容のセミ  
 ナーも開催でき、健やかな成長が見込める。  
 地域の方々や、ボランティアの方が運営に携わって  
 くださることにより、様々な地域で居場所を作りたい  
 と考えて下さる方が増えた。



### 参加対象

22歳以下  
 (学生)  
 その家族

### 参加費用

無 料





## 02 社会福祉法人 あさがお福祉会 つだまちキッチンユニバーサルカフェ

住 所 徳島市

代表者 保岡 正治

### 団体の活動目的



地域の子ども達が、困ったり、怖い事があった時に、安心して逃げる場所、飛び込んで来れる場所でありたい。と言う思いから、どんな場所でもどんな大人がいるのかを知ってもらうために子ども食堂を続けている。

本当の意味での子どもたちの居場所になれるよう、社会福祉に携わる職員への意識向上育成も担いながら活動を継続している。

### 実施方法



開催日：月1回

時 間：17時～18時

場 所：Tsuda-Machi-Kitchen 内のユニバーサルカフェ

コロナ禍ではお弁当や子ども食堂ネットワークやフードバンクより頂いた食品、食材を配布している。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



既存のユニバーサルカフェの運営を基準に、栄養士が中心になってマニュアルに沿った衛生管理を行っている。コロナ対策、安全管理等は法人の感染対策委員会のガイドラインに沿って徹底している。

### 助成金を活用した結果・成果



開設費は、新型コロナウイルス感染症予防のための間仕切りや掃除機、お弁当の配達等を安全に行うためのクーラーボックスや、事務用品のラミネーターの購入にあてることができた。

運営費は、衛生面の備品を継続して購入させて頂くことで、衛生管理の徹底につながった。

#### 参加対象

18歳以下  
の児童

#### 参加費用

無 料







## 03 ファミリースペース富田運営委員会 しゅくだいカフェ



住所 徳島市

代表者 七田 伸也

### 団体の活動目的



放課後、子どもたちが安全に安心して学べ、遊べる居場所づくり。

宿題を終わらせ、子育て世帯の「家族だんらん（夜の2時間）」を確保。

課題やハンデを持つ子どもを自然なコミュニケーションの中でサポート。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



入室時は検温、手の消毒を行い、マスク着用を心がけている。

空間除菌の機器を設置。抗菌・抗ウイルスに効果があるイオンコーティングを室内と子どもたちがふれる机・本等に噴霧している。

参加するボランティアは必ず体調等のチェックシートに記入してもらっている。

### 実施方法



開催日：月～金曜日

時間：15時～19時

場所：しゅくだいカフェ

常時1～3人程度のボランティアが宿題を教えたり、いっしょに遊んだりして見守りをしつつ、子どもたちが自由に利用できるようにしている。

※基本的に学校が休みの時は休み（土・日・祝、春・夏・冬休みは閉店）

### 助成金を活用した結果・成果



コロナ対策に必要な機器や備品を購入できた。

学習に必要な書籍やタブレットも設置することができ、月1回程度行うイベント開催（夏祭り、ハロウィン、クリスマス等）の費用にも充てることができた。



参加対象

小学生

参加費用

無 料





## 04 親子サークルつちからき畑のプレーパーク



住所 徳島市

代表者 児島 久美子

### 団体の活動目的



自然の中で自由に安全に遊ぶ場所がない時代の子どもの居場所づくり。

屋内の子育て支援施設では、過ごしづらい親子や不登校のお子さんの居場所となる。

### 実施方法



開催日：月に2回 水曜日

時間：10時～14時頃まで

場所：自然農園マユコベ（徳島市国府町和田字西ノ宮2）

古民家と菜園を活用し、畑作業や木登り、火おこし、水遊び、工作などができる場所をつくる。

各回のプランによっては、材料費実費を徴収する。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで気をつけていること



事前のハザードの除去、スタッフへの講習や保険加入。原則、野外で活動し、室内を使う場合は、窓を開け換気をする。

食べものを提供する場合は、アレルギー対策として利用食材を明記するとともに、参加者への声かけをする。飲食物は調理後、各自にとりわけ食べるようにする。

### 助成金を活用した結果・成果



居場所のシンボルでもあり、子どもたちの遊び場兼食料保存庫でもあるアースバック倉庫を建てたことで、一気に場所づくりが進んだ。

活動場所や講師謝金を確保できたことで、持続的な活動ができています。

### 参加対象

妊婦、  
0才～6才の親子と小学生  
子ども的人数  
10人～15人程度

### 参加費用

無料  
(材料費  
実費のみ)







## 05 The Third Place



住所 徳島市

代表者 佐々木 海

### 団体の活動目的



家庭環境及び学校生活の中、様々な要因により心身ともに健全な生活環境下にない子ども（主に地域の中学生）を対象に、定期的に社会福祉法人の場所を提供し、直接あるいはリモートにより、相談支援及び学習支援をすることで、子どもの健全な心の拠り所となる居場所づくりを行う。

### 実施方法



開催日：毎週火、木曜日

時間：17時～20時は、場所のみ提供（主に自主学习・読書など）

18時～20時不定期で大学生による学習相談

場所：The Third Place

土曜日（月2回程度）14時～17時は、利用者の希望に合わせて大学生と対面あるいはリモートで相談対応したり、学習支援を行ったり、ゲームなどを楽しんだりする。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで気をつけていること



来所する子どもに対し、エントランスにて手指消毒の徹底及び検温を実施し記録する。

また体調不良時の利用は控えてもらう。

空気清浄機・加湿器の設置、テーブルには飛沫防止パネルの設置、複数名利用の際にはパーティションで空間を区切る、利用後には机等は消毒を行うなどしている。

### 助成金を活用した結果・成果



運営を行うために必要なパーティション類を購入することで感染対策ができるとともに、一人一人の空間の確保につなげることができた。

利用者の希望に沿った書籍や参考書などの物品を揃えることができた。

#### 参加対象

地域の  
中学生

#### 参加費用

無 料







06

## 沖洲放課後クラブ

みんなの居場所となり、ソーシャルスキルが学べる無料のコロバクラブ



住 所 徳島市

代表者 岩見 宏康

### 団体の活動目的



障がいの有無に関わらず、子どもたちの健全育成を願い、年間計画に基づいて、みんなの居場所や学びの場を提供する。保護者には、親のためのコミュニケーション講座実施。

子どもも保護者も自己肯定感や自尊感情の高まりとともに、リーダーシップやメンバーシップを養いたい。

### 実施方法



開催日：5月～2月までの毎週金曜日

時 間：16時～18時45分

年間計画に沿ってコロバタイムとソーシャルスキルを学ぶスペシャルタイムを実施。毎週日曜日の午後自然の恵みを味わうスペシャルイベントを楽しむ。夏休みは、川遊びやキャンプの他に宿題やろうスペシャルやパン作りやアニメ作り等の夏休みスペシャル体験を実施。冬休みは、コロバ工作教室で、マスクチャーム、コマ、種の笛作り。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで気をつけていること



本人及び家族が体調不良の場合や通っている学校学級が休校の場合は、活動を休止。

入り口での検温と手の消毒と体調確認

会場は、空気清浄機の作動と窓を開けて常に換気  
活動開始前と終了後の除菌と拭き掃除(特にトイレ)  
飲食を伴う活動は、学校の調理学習の有無に準ずる  
感染状況によっては、時間短縮や内容変更を行う。

自前のマニュアルに沿って、子どもたちの安全と健康を最優先に行う。

### 助成金を活用した結果・成果



三密を避けるために金曜日の実施方法を工夫するだけでなく、日曜日の午後大自然の中に出かけ、今までできなかった活動をたくさんしたり、コロナ禍の自粛生活の中で、ストレスを抱えている子どもたちや保護者が、のびのびと楽しく活動したりできた。

筍掘り、イチゴ狩り、牟岐少年自然の家での1泊2日のキャンプ、神山森林公園のオリエンテーリング、寒中眉山登山、沖洲川での魚釣り大会等々。自然に、助け合いやメンバーシップ・リーダーシップが高まった。

#### 参加対象

小学生と  
その保護者

#### 参加費用

無 料

(但し飲食を伴うものは1人300円  
キャンプやいちご狩り等金額のはる  
ものは一定額負担)





# 07

## 友愛クラブ「ともしび」

子どもたちの居場所 ユニバーサルカフェコミュニティはうす TSUDOJ



住所 鳴門市

代表者 太田 晴清

### 団体の活動目的



児童から高齢者等、あらゆる市民の福祉に関する活動に取り組んでおり、地域社会における福祉の向上を図ることを目的に活動を行っている。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで気をつけていること



入館時検温、手指の消毒、来館簿に学年、氏名、連絡先、検温結果の記載。  
食事の提供に関しては、食品衛生法の規定に基づき許可を受けた上で活動を行っている。

### 実施方法



開催日：毎月土曜日(4回)  
時間：12時～13時  
場所：「ユニバーサルカフェ コミュニティはうす TSUDOJ」

子どもたちの食生活を支援するために、会食型の昼食会を開催。

### 助成金を活用した結果・成果



保護者からのニーズに基づいて児童の受入れを行うことにより、保護者との関係についてお互いが子どもに対する関心を高めることができた。

#### 参加対象

第一小学校  
児童  
5名程度

#### 参加費用

1回 200円  
(保護者負担を  
求めています)







▲ ファイヤースターターでの火おこし体験(防災教室)



▲ 地域の防災イベントに参加

## 08 なんとにしてとてとて こどもふれあいひろば



住所 鳴門市 代表者 佐々木 由紀

### 団体の活動目的



子どもたちの活動に地域の大人を巻き込み、一緒に活動していくことで、地域全体で子どもたちの成長や学びを支えていくことを目的とする。

子どもを中心とした活動を通して、子どもだけでなく大人も共に学び、人と人との繋がりや地域づくりを共に考えていけるようにしていきたい。

### 実施方法



開催日：毎月、第3 or 第4日曜日

時間：10時30分～12時

場所：鳴門公民館

毎月、公民館に子どもたちや地域の大人が集まり、ボードゲームや工作などの遊びを通して世代を超えた交流を行っている。

地域のふれあいひろばの子ども部門としてスタートした。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



各種マニュアルを作成している。公民館で実施しているため、公民館の利用ルールに従い、参加者の名簿作成、体温測定、消毒の徹底、マスク着用の義務、定期的な換気等の対応をしている。

### 助成金を活用した結果・成果



開設経費で囲碁ボールセットやボードゲーム等を購入し、子どもたちだけでなく大人も交流アイテムとして利用できるようになった。

運営経費は、毎週の開催時の運営に充当することができ、今後の自立運営に向けたステップとなった。



#### 参加対象

子ども  
から  
大人まで

#### 参加費用

無 料





## 09 黒崎地区女性会 みんなで集う！子どもふれあい食堂



住 所 鳴門市

代表者 富田 妙子

### 団体の活動目的



少子化、核家族化が進み世代間交流ができる場が日常生活の中から減少している。その一方で、地域の子どものを守り育てようとする地域の方々や一人暮らしの高齢者もたくさんいる。そういった地域の年長者との関わりを持ち、その方々の思いやりにふれる機会、また、子供たちの中にある思いやりの気持ちを引き出し、幅広い地域の方々との交流の場を提供する。

### 実施方法



開催日：毎月1回日曜日

時 間：11時～14時

場 所：黒崎集会所

日曜日の昼食を提供して、地域の方と交流出来る居場所づくりを行っている。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



新型コロナウイルス感染症対策として、入り口での検温と消毒、テーブルの間隔をあけるなどして開催した。開催日によってはお弁当を持ち帰りとした。集会所での開催のため保健所の届が出来ている施設で調理している。

### 助成金を活用した結果・成果



定期的な開催をすることで、子どもたちの居場所ができた。コロナ禍でお弁当配布の日が多くなったが、地域と子どもたちが繋がる良い機会になっている。



#### 参加対象

子ども  
・  
大人

#### 参加費用

子ども 無 料  
大人 300円





▲ 2月の居場所その1(味噌づくりをしよう)



▲ 2月の居場所その2(音楽を楽しもう)

## 10 一般社団法人ひとみ学舎 居場所の会



住所 鳴門市

代表者 居上 公美子

### 団体の活動目的



不登校の子どもや学校に馴染めない子ども、あるいは積極的に学校に行かないことを選択した子どもや保護者が安心して過ごせる居場所を提供する。

### 実施方法



開催日：毎月第3土曜日

時間：13時～16時

場所：ひとみ学舎や公園、海岸や山等

子どもや保護者（大人）たちのしたいことを提案し合っ、少人数でゆったりとした時間配分で活動する。

子どもと年齢の近いボランティアに来てもらったり、ジャンルにとらわれない活動内容を提案したりすることで、自由に安心して活動できるような場を作り、みんなで楽しむ。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



参加前、1週間程度健康観察を行ってもらい、開催当日は、検温やマスクの着用、手指消毒を徹底した。

事前の下見や、スタッフの事前・事後の打ち合わせを丁寧に行い、支援の必要な子どもに適切な対応ができる様に対策を講じた。

### 助成金を活用した結果・成果



みんなが集える居心地の良い空間が作れた。また、音楽を楽しんだり、味噌を作ったりする体験ができた。毎月の運営費で細かな備品や消耗品を購入することができ、活動の幅が広がった。

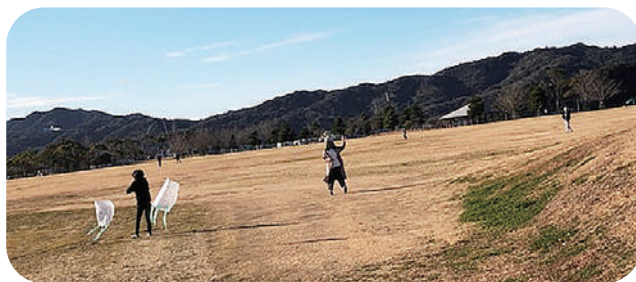
子どもの参加費を無料としたことで、気軽に参加する子どもの数が増えた。

### 参加対象

小学生～大人まで  
子ども10名、大人5名  
(※見込み人数)

### 参加費用

高校生以上  
500円



▲ 1月の居場所(風を作ってあげよう)





# 11

## 子育て応援隊!キッズステーション NARUTO 子どもふれあい食堂! NARUTO



住所 鳴門市

代表者 山本 恵美

### 団体の活動目的



核家族化が進む中、高島町は新興住宅地で共働きの家庭や単身赴任、離婚などの理由でシングルで子育てされている家庭も見受けられる。また子どもたちの夕食時間は遅くなり、安心して集える場所も無いことから健全な生活リズムを形成するための支援が必要だと考え、食堂と学習スペースをつくり居場所を提供する。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



新型コロナウイルス感染症対策として、飲食スペースが密にならないよう、お弁当を持ち帰りにするなどの工夫をした。

入り口では体温の計測と消毒を徹底し、各テーブルには消毒液を設置している。

ボランティアスタッフも最小限の人数にし調理している。

### 実施方法



開催日：月1回 水曜日

時間：16時～19時30分

場所：キッズステーション NARUTO 併設のカフェスペース

夕食を提供する。

### 助成金を活用した結果・成果



たくさんの子どもに美味しい夕食を提供することができ、支援を必要としている子どもたちには、宅配することができた。

ひとり親世帯などの子どもたちの参加も増えてきており、今後も継続して開催する事の必要性を感じている。

#### 参加対象

子ども、  
保護者等

#### 参加費用

子ども 無料  
大人 300円







▲ お釜で芋がゆ作り



▲ みんなで工作タイム

## 12 新開放課後子ども教室 ポコ



住 所 小松島市

代表者 轟 千代

### 団体の活動目的



放課後子ども教室ポコでは、子どもたちがありのままの自分を受け入れられ、自分の力を伸ばしていけるそのような居場所を提供したいと願っている。

またスタッフも、子どもたちも共に成長していける場所となることを目標としている。

### 実施方法



開催日：毎週木曜日

時 間：15時～18時

場 所：小松島チャペル

約 20 名の子どもたちが集い、宿題支援や工作、英語、クッキング、環境学習、国際交流など、さまざまな体験学習を通して子どもたちの可能性を広げ、少しずつなりたい自分になれるよう支援している。

また長期休暇中には、「ポコまつり」や「クリスマスお楽しみ会」を開催している。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで気をつけていること



参加時に、手洗いと消毒を徹底し、検温を記帳し、体調の悪い子どもがいないか注意している。

また、子どもたちがおやつを食べるときは、密にならないように注意している。

年に1回は、スタッフと子どもたちが一緒に避難訓練や防災グッズを作るなど、防災意識を高めている。

今年は、窓ガラスにガラス飛散防止フィルムを張り耐震強化に努めた。

### 助成金を活用した結果・成果



学びを通して、親子のふれあいと学びの場を提供することができた。

また、新型コロナウイルス感染症の増大で、「ふれあい会」が中止となったため、講師費用を、防災ネット設置費用に充てることができた。その結果、子どもたちの活動がより安全に行うことができるようになった。

#### 参加対象

新開小学校  
1年生～6年生

#### 参加費用

毎月200円  
(工作費用、  
おやつ代)

夏  
の  
ポ  
コ  
ま  
つ  
り  
で  
水  
遊  
び





## 13 特定非営利活動法人子ども夢つむぐ 「みんな集まれ」わくわくキッズ



住 所 小松島市 代表者 野網 佐恵美

### 団体の活動目的



学校教育だけでは経験できない様々な古典文化・ICT・科学・外国語・お菓子づくり等を経験しながら異年齢集団の心の絆を育てる。

### 実施方法



開催日：毎月1回水曜日

時 間：15時50分～18時30分

場 所：小松島市立児安公民館

無料で子どもたちが楽しく学べるように古典文化・ICT・科学・外国語・お菓子づくり等が体験できる場を設定している。

また、放課後に宿題支援をし、PCや百人一首で自由に遊んだ後、その日のメイン活動を行った。活動内容は近所の学童保育に来ている子どもたちにもオンライン配信した。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



実施前にうがいや手洗いを徹底しながら、感染者が少ない時期には、適度に離れつつ、向かいあって遊ぶこともあったが、感染者が増加した時期は、百人一首等は一切向かい合わせとならないように壁に向かって実施した。

### 助成金を活用した結果・成果



異年齢集団の中でも、上学年が下学年の面倒を見ながら、百人一首、ドローン操縦、タブレットでのお絵描き、英会話等を経験して、絆を深めることができた。

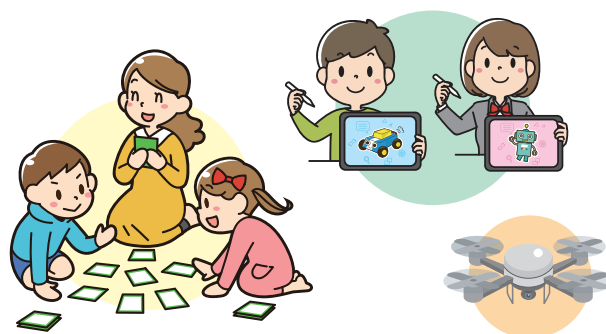
ICTに不慣れな子どもたちも、自らiPadでお絵描きやドローンを飛ばすなど、積極性を養うことができた。

### 参加対象

幼児から  
小学6年生

### 参加費用

無 料







14

## 特定非営利活動法人べんざいてんのお家(旧:こどもとからふる) 子育て支援事業



住 所 阿南市

代表者 吉本 真菜実

### 団体の活動目的



子育ての悩みを気軽に話したり、情報交換をしたりする場所が少ないことや、地域の支え合いの中で子育てを協力し合える環境が少ない状況を改善することを目的としている。

様々な人が子育てに関わることで、社会全体で子育てを応援する場になるとともに、地域共生社会実現のコミュニティスペースとして活用が期待できる。

### 実施方法



開催日：月3回

時 間：10時～14時

場 所：べんざいてんのお家

拠点となる「べんざいてんのいえ」を利用して、未就学児とその保護者及び、公立学校に行かないことを選択した児童とその保護者、また地域のボランティアが交流しながら、季節の手仕事や畑仕事をし、自由な時間を過ごす。また、だれもが今の自分を大事にできる時間「聴き合う場」を開催する。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



作成した安全管理マニュアルに基づき、屋内でのマスク着用、消毒、及び、参加者・スタッフの健康チェックを毎回実施している。

食品衛生責任者講習会を受講したスタッフを配置し、毎食、子ども一人ひとりのアレルギーや食中毒の予防に取り組んでいる。

### 助成金を活用した結果・成果



開催運営に充当することができ、季節の手仕事やクラフトなど、思い思いの時間を過ごすことができた。また、様々な分野の専門家を招き、普段の生活では体験できないことを得ることができた。

#### 参加対象

18歳以下の子ども  
およびその家族

#### 参加費用

子ども 無 料  
大人 200円





15

## 子どもゆめスクエア

世界と子どもたちを繋ごう!~子ども夢パークyoshinogawa~



住 所 吉野川市

代表者 山賀 太郎

### 団体の活動目的



国際交流の場が少ない吉野川市の子どもたちに、世界中の人々との交流の場を設ける。また、広い視野を持ち、様々な異文化を体験し、世界に羽ばたける子どもたちを育てる。

国際交流を自らが意欲的にできる力を養い、グローバルな社会へ対応でき、夢を実現できる子を育てることを目的とする。

### 実施方法



開催日：年間 20 回開催

場 所：鴨島児童館

NPO 法人眉山大学と協働し、子どもたちと世界を繋ぐ。現在、コロナ禍で海外の方との交流が難しく、日本の大学生や社会人メンバーを通して、学習支援や外国の文化や言語を学んでいる。また、地域との連携を図りながら、子どもたちが安全で安心して過ごせる居場所を提供する。

#### 参加対象

18歳以下の児童  
及びその家族

#### 参加費用

無 料  
(今年度は参加費用は  
ありません)

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



コロナ禍のため、子ども食堂の開催ができず、餅つきをした時も、その場で食べることを見送り、持ち帰りとした。

オンラインを活用しながら、海外や日本の大学生と交流をし、対面で活動する際には、ソーシャルディスタンスを保ちながら、感染対策を十分に行った。

子どもが集まる施設のため、思わぬ事故が起こらぬよう、注意して活動した。

### 助成金を活用した結果・成果



パワーポイントや音響等、オンライン環境を整えることで、全国各地の大学生や海外と繋がり、交流を通して、子どもたちの世界観が更に広がった。







## 16 子育てグループおちくぼ物語



住 所 吉野川市

代表者 落久保 重利

### 団体の活動目的



核家族や共稼ぎ家庭などの子どもたちの、安全で安心な居場所づくり、さらに、心のケアや学習支援、多世帯との交流や障がい児・高齢者・近隣者とのふれ合い交流の場（コミュニティスペース施設）として、子どもの身近な安心できる居場所とすることを取り組むべき目標としている。

### 実施方法



開催日：月曜日と金曜日

土曜日、日曜日は交互に実施、さらに、祝日も実施予定とする。

時 間：16時～19時

場 所：子育てグループおちくぼ物語

子どもやそれを支える近隣の大人、さらに、児童を見守るスクールガードにも協力を得て、勉強・宿題や工作等、交通安全教育に取り組む。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで気をつけていること



コロナ対策は、県が発表した基本対策に専念し、お菓子類や飲み物も密封されたものの提供を行い、万全を期している。

また、毎月スタッフ間で、安全管理マニュアルの確認を行っており、万全の事故防止方策に取り組むことに専念した。

### 助成金を活用した結果・成果



開設経費のおかげで、自己負担が少なく開設することができた。

自己負担でまかなっていた講師等の経費などが負担減となり助かった。

子どもたちが喜んでいる姿を見て、やりがいのある活動だと感じさせてもらった。

開設当初からコロナ禍（まん延）になるなど、厳しい状況下で人が集まらず、少人数での開催となり、実施回数もままならない状況だったが、子ども自身の成功体験等を体得することで、さらに、自身の育成と相互的社会的環境の熟成に取り組むことができた。

#### 参加対象

幼稚園児や  
小・中高生

#### 参加費用

無 料



17

## 社会福祉法人 共生会 子どもが主人公になる居場所づくり



住所 阿波市

代表者 原 照代

### 団体の活動目的



様々な支援を必要とする子どもたちに対して、食事の提供や遊び体験等が経験できるイベント開催をしている。また学習支援やだんらんの場を提供させていただくことで、子どもたちの地域での居場所づくりに取り組んでいる。さらには、子どもたちの支援を通じ、様々な機関と連携し、子どもたちをサポートすることで問題の負の連鎖を防ぐセーフティーネットとなることを目的とする。

### 実施方法



開催日：毎月1回(土曜日)

時間：11時～15時

場所：「きららカフェ」

子ども食堂の開催、食育コーディネーターによる献立(年3回)、手作り体験や遊びコーナー等イベント開催。配慮が必要な子どもの参加や、家族からの相談があった場合には、関係機関担当者の参加依頼とサポート連携体制を図る。



### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



感染対策としては、人数制限や飛沫パネルの設置、室内換気、食事前後の手洗い・手指消毒、テーブル等の消毒等、既存の新型コロナウイルス感染症マニュアルに基づいた対応を行っている。

食事については「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」を行い、「一般衛生管理マニュアル」に沿った取組みを行っている。

### 助成金を活用した結果・成果



コロナ禍での開催ではあったが、毎回70名近くの方が参加された。子どもたちには、食事の提供やキッズコーナーなどの参加や学習支援を行いながら、予定どおり毎月の開催をすることができた。

助成金活用により、今後の子ども食堂等、定期的な運営のステップアップとなった。

#### 参加対象

中学生以下、  
ご家族

#### 参加費用

中学生以下 無 料  
高校生以上 1回 500 円





▲ ミュージカルリハーサル 撮影用にマスクを外しています

18

## 特定非営利活動法人あわ・みらい創生社 子どもたちの素敵で楽しいまちづくりプロジェクト

学習支援

住 所 阿波市

代表者 井原 まゆみ

### 団体の活動目的



「まち誰でも素敵に変えられる」ことを体験を通して理解する。  
ふるさとに愛着を持つ。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



マスク、手指消毒。  
ボランティア保険加入、安全なプログラムを心がけている。

### 実施方法



開催日：毎月1回

時 間：3時間～6時間

場 所：阿波市阿波町伊沢田、大道北

ミュージカル、文化の伝承（おばあちゃんが先生のちぎり絵講座）、妖精の村の花植、草取りなど。

### 助成金を活用した結果・成果



材料費、講師謝礼、おやつとエシカル弁当の提供ができた。

「キッズまちプロ」は、まちづくりを考え、行動する小学生が中心の団体で、令和3年度は、みんなで作った「妖精の村の物語」をミュージカルで表現し、「ツリーハウスの森で遊ぼうイベント」で来場者にお披露目することができた。

最初は恥ずかしいと自信なさそうにしていた子どもたちだったが、練習を重ねるうちにステージで堂々と演じることができた。

子どもたちは、みんなで作ったツリーハウスの森と妖精の村の物語をたくさんの人に知ってもらえて良かったと、感想を話してくれた。



### 参加対象

小学生 11名と  
大人のサポーター 3名

### 参加費用

無 料







19

## ニコニコこども食堂 地域コミュニティの醸成事業



住 所 阿波市

代表者 来田 美晴

### 団体の活動目的



子どもが地域の人々と一緒に食事を楽しむ機会をつくり、共働き家庭が増える中で、子どもたちが手作りの料理を食べる機会を増やす。

### 実施方法



開催日：毎月 25 日

時 間：18時～20時頃まで

場 所：ショッピングセンター・アワーズ内の食堂（阿波市伊沢田 88-1）

地域の野菜を使い、手の込んだ家庭料理を提供して、地域の人々と一緒にの機会を設ける。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



作成した安全管理マニュアルに基づいた対応を行う。万が一に備えて、ボランティア行事用保険に加入する。コロナ感染対策では消毒、手洗いを徹底するとともに、密にならないよう距離を置くことを心がけてもらっている。

### 助成金を活用した結果・成果



毎回来てくださる常連のご家族も増え、地域の中でこども食堂が定着しつつあると感じる。食材の提供にご協力いただける企業も増え、地域全体でこども食堂の運営を支えようという意識が高まっている。

### 参加対象

中学生以下の  
子どもと  
その家族

### 参加費用

高校生以上は  
一人 300 円







## 20 遊び場プロジェクト プレーパーク



住 所 阿波市

代表者 坂本 紗智子

### 団体の活動目的



地域の子どもたちが、地域住民と関わったり異年齢で群れたりしながら外遊びをすることを通して、子どもたちの「生きる力」を育むこと。また、子どもたちが安心してのびのびと過ごすことのできる、より良い地域づくり・まちづくり。

### 実施方法



開催日：毎月第1土曜日開催

時 間：9時30分～11時30分

場 所：外遊び場さっちゃんちよこ（阿波市阿波町）

外遊びを通じた居場所づくりを行うため、毎月プレーパークを開催する。

木工作・段ボール工作・シャボン玉・色塗り・砂遊び・昔遊びなどの遊びができるよう準備し、子どもたちが自分の興味に合わせて自由に遊べるようにしておく。

### 参加対象

主に未就学児～  
小学生と  
その保護者

### 参加費用

一家族  
100円

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



毎回、遊び場の安全点検を開催前に行うとともに、開催中もスタッフが子どもたちの遊びを巡視し、危険等がないか注意しながら見守る。

手指の消毒、食品を触る際には使い捨て手袋を使用、マスクの着用。地域の感染拡大が深刻な場合には開催を中止する。

### 助成金を活用した結果・成果



開設経費で、古くなった矢倉の解体費用と屋外用テントの購入に充て、より安全・快適に外遊びができる環境が整った。

運営経費は、毎回の開催時の運営に充て、子どもたちがのびのびと楽しく遊ぶことができた。

保護者もそんな子どもたちを見守りながら和やかに過ごし、子どもも大人も、毎月の開催を心待ちにしていたようだ。







# 21 すまいるきっず+



**住 所** 三好市 **代表者** 宇津 好子

## 団体の活動目的

子どもたちの学習支援やいろいろな体験をすることにより、子どもたちにたくさんの引き出しを作ってあげたいと思っている。  
各分野の講師先生をお招きし、学習・子ども食堂を通じて食育・みんなで食べる楽しさを経験してほしいと思う。また、放課後の、子どもたちの家でありたいと思っている。

## 実施方法

**開催日:** 毎週火曜日  
**時 間:** 学校が終わる時間から 19 時頃まで  
**場 所:** すまいるきっず+  
宿題などの学習支援。  
月に一回は、イベントや子ども食堂を開催している。

## コロナ対策・安全管理・衛生管理などで気をつけていること

コロナ対策としてマスクの着用、手指消毒するとともに、密にならないよう、食事の時は開いている部屋を利用。  
子ども食堂は、手洗い消毒、食物の加熱処理など、衛生管理を徹底している。

## 助成金を活用した結果・成果

毎回、講師をお招きし、子どもたちにいろんな分野の経験をさせてあげられた。  
また、備品購入で、活動場所の衛生を保ち、安全な部屋にすることができたなど、活動に役立った。

**参加対象**  
幼児・小学生・  
中学生  
およびその家族

**参加費用**  
無 料







## 22 あえるば上勝事務局 あえるば上勝



住 所 勝浦郡上勝町

代表者 柿田 恵美

### 団体の活動目的



上勝町で子育てをしている人、またそれを応援したい人たちをつなげ、参加者相互の親睦を深め、子どもたちのより良い育ちを応援するための活動を行う。

### 実施方法



開催日：月1回

時 間：2時間程度

場 所：町内の公共施設や山・川など

カナダ人ネイティブの講師を迎えた英語遊び、地元の高齢者との昔遊び、公園のない上勝における遊び場づくりワークショップ、山登り、運動教室など参加者からの意見を取り入れながら、子どもたちの豊かな育ちにつながる活動をしている。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



参加対象を上勝町民に限定し、毎回検温、手指消毒、室内開催の場合は可能な限りマスクを着用する。

安全管理マニュアルを作成し、スタッフ間で共有し、いざという時に備えている。

子どもの自発的な行動を制限することなく安全を確保するため、地元青年会にも協力していただき、スタッフの充実にも努めている。

### 助成金を活用した結果・成果



長年使われていなかった家屋を整備して、活用できるようになった。

参加費を抑えながら、毎月充実した活動を行うことができた。

#### 参加対象

上勝町在住の  
親子

#### 参加費用

無 料  
または  
1家族500円







▲ ZOOM活用 オンライン座談会



▲ 名西高校定時生 探究の時間におけるエシカル講座

## 23 Nagomi ラボ 和みプラザ活動によるラボ活動



**住 所** 名西郡石井町 **代表者** 安達 和美

### 団体の活動目的



子どもたちが、時代の変化に合わせた学びや情報に触れる機会を作る。

子どもたちが新しい体験をする事により、自主的(能動的)な行動の基礎をつくる。

### 実施方法



**開催日**：月1回程度

**場 所**：和みプラザ

オンライン、和みプラザ、名西高校などで、SNSによる情報取得や、オンライン(ZOOM)による体験者との会話の機会を持つ。

これにより、誰もが異年齢の人とふれあう機会を持つなど、自分の考えを深めたり、エシカル消費への考え方を深めたりするきっかけをつくる。

### 参加対象

エシカルやSDGsに関する関心を持つ人達  
(持って欲しい人達)

### 参加費用

児童は無料、大人は参加費  
(材料代)

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



集合での開催時には、参加定員を時差で設けたり、会場での手指消毒や体温測定を実施。

オンライン(ZOOM)により、リモート開催を行った。

### 助成金を活用した結果・成果



エシカルやSDGsに関する商品の背景などを学ぶことができた。

また、オンライン(ZOOM)を活用することで、距離や時間を越えたコミュニケーションを持つことができ、県外・海外の人との情報交換による体験から、新しい企画やイベントを開催することもできた。



▲ ワークショップチラシ





## 24 特定非営利活動法人リーフ 子どもカフェ



住 所 板野郡板野町

代表者 阿部 紀子

### 団体の活動目的



核家族化や、ひとり親家庭の増加等に伴う孤食や虐待を防ぐカフェとして、地域の子どもが気軽に立ち寄り、居心地のよい場所を目指す。

### 実施方法



開催日：毎月、第4土曜日

時 間：11時30分～14時(年12回開催)

場 所：喫茶ハーブ

食事の提供を通じた居場所づくりを行うため、子どもたちに無料で喫茶ハーブの食事を提供する「子どもカフェ」を開催し、食事以外にも遊んだり、本を読んだり、宿題をしたりできる機会と、居場所を提供する。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



安全管理マニュアルを作成し、毎回、安全に子どもカフェが開催できるように職員間で話し合いを行っている。

コロナウィルスの感染が拡大している時期は、完全にテイクアウトのみでの開催に限定したり、開催を中止にして感染を未然に防ぐよう努めた。

万が一の事態に備えて、ボランティア行事用保険に加入した。

### 助成金を活用した結果・成果



洗い物を行うシンクが極端に狭く、不便だったが、開設経費で2つのシンクがある深い流し台を購入することができ、今後スムーズにイベント用の大量の調理、片付けが行えるようになった。

#### 参加対象

子ども20名  
小学生15名、  
中学生5名程度

#### 参加費用

無 料





25

## 那賀町を良くする会 “おんどりほーむ”地域のつながりプロジェクト



住 所 那賀郡那賀町

代表者 谷澤 勇

### 団体の活動目的



地域の子どもたちが安心して参加し安全に遊べる居場所を整える。

ひとり親家庭の増加等に伴う孤食や虐待を防ぐとともに、仕事と育児介護のダブルケアの負担軽減、ヤングケアラーを防ぐためのコミュニケーションや育児や介護に関する相談の場づくり。ピアサポーターの推進。

核家族化や地域コミュニティにおける人間関係の希薄化による子育てや介護の孤立化を防ぐための地域の居場所づくり。

多世代交流や子育て中のママたちが自分たちのペースで無理なく地域や仲間との関わりを持ち、子育てを楽しみ、学び、安心して過ごせる居場所づくり。

豊かな子どもの育ちを地域みんなで見守りあう仲間づくり。

### 実施方法



開催日：毎月1回

時 間：8時～17時30分

場 所：所有者より提供を受けた物件（空き家）を再生、利活用

地域住民や大学生、ボランティアを広く募り、地域住民と子どもたちが集う。座談会やワークショップなども開催して多世代交流の機会を設けた。

子どもと保護者、地域住民に無料または安価で食事を提供する「子ども食堂」を開催した。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



子ども食堂など飲食は屋外で実施し、マスク装着、体温測定、アルコール手指消毒を徹底。

ボランティア行事用保険に加入。

スタッフ1名が食品衛生責任者講習会を受講し、食品衛生管理について学び実践した。

徳島県の衛生管理、感染症防止マニュアルに沿った対応を行った。

### 助成金を活用した結果・成果



地域の子どもたちが安心して参加し、安全に遊べる居場所を整えることができ、豊かな子どもの育ちを地域みんなで見守りあう仲間づくりの輪が広がった。

核家族化や地域コミュニティにおける人間関係の希薄化による子育てや介護の孤立化を防ぐ地域の居場所として、多世代交流や相談の機会とすることができた。

子育て中のママは、自分たちのペースで無理なく地域や仲間との関わりを持ち、子育てを楽しみ、学び、安心して過ごせる場を整えることができた。

#### 参加対象

誰でも可  
令和3年度は  
（雄地区住民を対象とした）

#### 参加費用

原則、無料





26

## 特定非営利活動法人牟岐キャリアサポート 牟岐・子どもの居場所「Your Place」開設事業



住 所 海部郡牟岐町

代表者 大西 浩正

### 団体の活動目的



人口減少に伴い人間関係の固定化等により生き辛さを感じる子どもたちが一定数存在する。また、牟岐町には高校がなく、高校進学後は地域との関わりも持ちにくい状況となっている。こうした町内の子どもたちにとってひらかれた居場所を提供する。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



安全管理マニュアルを作成するとともに、施設管理者である牟岐町教育委員会の指示に従い安全管理に取り組んでいる。

町外から参加する学生スタッフは、PCR検査や抗原検査を行い感染を持ち込まないように留意している。

感染拡大期にはオンライン開催に切替え、子どもたちが集まることなく活動目的を達成できるよう工夫している。

### 実施方法



開催日：月4回（平日放課後2回、休日午後2回）

大学生、退職教員のスタッフ（春・夏・冬の長期休暇中は大学生ボランティア参加）が、月4回のペースで中高生の相談やゲーム、学習支援などを行う。対面での活動が難しい時期はオンラインで交流できる機会を設ける。

### 助成金を活用した結果・成果



開設経費でパソコン、プロジェクター、スピーカーを購入できたことで、コロナ禍にあっても、継続したオンライン開催が可能となり、通年で月1、2回のペースで実施したスタッフミーティング、記録の保存等に役立ち、活動の基盤を整備することができた。

#### 参加対象

牟岐町  
在住の  
中高生

#### 参加費用

無 料







## 27 あまべの杜 おばちゃんちのウチごはん



住 所 海部郡海陽町 代表者 笠原 まり

### 団体の活動目的



成長期の子どもの食事をコンビニ弁当やジャンクフード漬けにせず、バランスのとれた食事を摂ってもらう。

地域の子どもたちにも食べに来てもらう子ども食堂としての役割も担う。

### コロナ対策・安全管理・衛生管理などで 気をつけていること



コロナ対策として、子どもにも手指消毒の徹底や食後の早めの退出を依頼。パーテーションの設置をし、感染予防に努めている。

スタッフに周知できるように、衛生面でのマニュアルを作成している。

スタッフは全員、ボランティア保険に入る。

### 実施方法



開催日：月に10回程度 毎週土曜日・日曜日・長期休み中

時 間：12時～19時

場 所：県立海部高等学校学生食堂

木曜午後までに寮の舎監が取りまとめた人数の食事を提供する。

### 助成金を活用した結果・成果



食欲旺盛な運動部の生徒は、徴収した金額では賅いきれないほどたくさん食べるため、その分はスタッフの持ち出しだったが、持ち出しがなくなってきた。

#### 参加対象

1人親家庭  
小中学生  
海部高等学校  
寮生

#### 参加費用

小中学生  
昼200円・夜300円  
高校生  
昼500円・夜600円







とくしま子どもの居場所づくり推進事業  
マスコットキャラクター「ふあわ」

1

子どもの居場所  
づくりに関する  
“相談窓口”

子どもの居場所づくり推進コーディネーターを配置し、各地域で継続的な交流の場としての「子どもの居場所」の充実・拡充への相談・支援体制を整えています。

2

広域的な  
支援バンク

広域的な支援者バンクを設置し、さまざまな活動団体や支援者の訪問等を行い、県内各地の社会資源を集約しています。

3

情報の発信

「子どもの居場所づくり応援サイト」ホームページや SNS 等で活動に関わる情報を発信したり、周知のためリーフレットの作製や啓発パネルの貸し出しを行ったりしています。

4

講座等の  
実施

運営者や新たに取り組みを希望する方、応援者・団体の交流の機会や支援の質の向上を図る講座等を行っています。

5

“とくしま  
子どもの居場所  
づくり推進基金”  
の創設

子どもたちが安心して参加できる「子どもの居場所」づくりの拡充を図ることを目的とした“とくしま子どもの居場所づくり推進基金”を設置して、「子どもの居場所」に取り組まれる団体を対象に助成を行います。



### 区分について



居場所の活動を分かりやすくお伝えするために、7つの区分で表記しています。

※各団体の内容は、2021年4月から2022年3月時点の内容です。

# これから子どもの居場所づくりを はじめる方に向けたエール

司会



国立大学法人 鳴門教育大学  
大学院 幼児教育コース  
准教授 木村 直子氏

現職では学部生や大学院生らと講義や研究をともにし、学校園や保育施設、フリースクールなど子どもの居場所のスーパーバイズにも力を入れている。徳島県教育委員会の家庭教育推進に関する専任アドバイザーや、徳島県子どもの居場所づくり推進会議委員を務めるなど、県内の子どもとその家族を支える活動を行っている。

参加者



ファミリースペース富田  
運営委員会  
代表 七田 伸也氏

平成20年より徳島市で新聞販売店を経営する傍ら、地域のお困り事解決サービスを展開。地域の様々な世帯からご依頼をいただく中で子どもの居場所の必要性を感じた。また自らPTA活動に参加する中で放課後学習の重要性も認識し教育格差の解消に貢献したいと考え2019年4月よりファミリースペース富田を開設し、しゅくだいカフェをスタート。

参加者



料理学習 つむぎ  
代表 大杉 麻弥氏

16年前に徳島に移住。5年前につむぎカフェをオープンし、食育研究者として各地で料理教室講師として活躍。3年前より子ども食堂を開催。子ども×食との触れ合いを通じ「日々の気付きを確かなものに。」と、子どもの「居場所づくり」の必要性を感じ、【料理学習つむぎ】を開催している。

参加者



子育て応援隊！  
キッズステーション NARUTO  
代表 山本 恵美氏

NARUTO総合型スポーツクラブのクラブマネージャーとして地域の問題解決事業に取り組む中、子どもたちの居場所の必要性を感じ2015年子育て応援隊！キッズステーションNARUTOを設立。2020年から子ども食堂NARUTOを始めている。

**木村准教授（以降「木村」）：**お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。子どもの居場所を運営される御三方に、「始められたきっかけ」や、「やりがい」、「これから予定する取り組み」をお話いただき、これから「子どもの居場所づくり」を始めようとされている方々へのエールになればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。早速ですが、自己紹介と、「始められたきっかけ」をお聞かせ下さい。『しゅくだいカフェ』の七田さんからお願いします。

**七田氏（以降「七田」）：**私は、2019年から『しゅくだいカフェ』を始めて、3年目になります。もともと地域の高齢者や子どものお役に立ちたいと思い、いろいろなお手伝いをしていました。そんな中、小学生の子どもが友だちの家に遊びに行くにも、複雑な

子ども同士の関係が影響して、自由にみんなで集まる機会や場所が案外少ないことを知って、すごく心配になりました。

「何かできないか」と思った時に、先んじて大阪府や福島県で『しゅくだいカフェ』という居場所をスタートされているとの噂を聞き、すぐ視察に行きました。そこで、具体的に子どもたちに対して居場所をつくるのが大切で、「仕事をしながらでも充分活動できますよ。」「ノウハウの提供もしますよ。」といった声をいただきました。私だけではできなかったと思うのですが、2019年の4月に『しゅくだいカフェ』を開設しました。駄菓子などは売っていますが、それ以外は完全無料で、営利ではなく、子どもの負担が生じないように運営しています。

**木村：**『料理学習つむぎ』の大杉さんお願いします。

**大杉氏（以降「大杉」）：**子ども食堂を、県内で継続している団体としては、1番古くから活動していると思います。

参加費は無料で、参加者の年齢は5歳から小学6年生まで。中学生、高校生はボランティアでの参加となります。大学生にもボランティアで来ていただいているので、異年齢交流も兼ねています。家庭の経済状況がどのような影響を及ぼすのか、貧困について分からない状態から子ども食堂をスタートしたのですが、活動していくうちに、確かに子どもたちを通じて貧困の影響を感じることもとなりました。

しかし、子ども食堂に行ったら「貧困なの？」と言われる状況は絶対に避けたいと思い、「楽しいイベントが体験できる子ども食堂」を目的に開催しています。

始めてみると、毎日でも子ども食堂



を利用したい子どもがいることがわかりましたが、開催日が限られている中では、毎日子どもたちに食事を提供することができません。それならば、子ども食堂で料理教室を開催して、子どもたちが自分で簡単に作れるレシピを教えることにしました。

料理には学びが詰まっています。ミリリットル、デシリットル、何分の1とか算数が学べますし、レシピを読み解くことで国語も学べます。どこで栽培された野菜か材料の産地を知ることは社会であり、料理の過程は理科の実験です。何より、料理は、すぐにできておいしいという、結果や成果が出しやすいものですし、これに感謝する気持ちがプラスされてきます。また、料理を作っている間も、子どもたちは絵を描いたり、雑巾を縫ったりして時間を過ごします。参観可能な保護者も一緒に、体験と思い出づくりをさせていただいています。

**木村：**『子育て応援隊!キッズステーション NARUTO』の山本さんをお願いします。

**山本氏 (以降「山本」)：**息子が小学生の当時は、まだ児童クラブが無くて、私が働く間に子どもを預ける場所はありませんでした。そんなとき、同じ思いを持つクラスのお母さん10人と、「集会所を借りて、誰か先生にお願いして子どもたちを見ていただこう。」ということになりました。

当時の集会所の役員さんたちが集まってくださる中、私たちがこれからやりたいことをお話したと

ころ、状況を理解いただくことができ、集会所を借りることが可能となりました。古い集会所だったのですが、隣にブランコと滑り台があって、子どもたちが使える遊具があるのが魅力でした。

もっと「地域の方が集まるコミュニティの場を作りたい」という思いが強くなった頃に出会ったカフェのオーナーから「自分の力ではできなかったけど、山本さんだったらできると思ったから、ここ貸してあげるよ。」と現在の場所を借りられることとなり、『キッズステーション NARUTO』を運営しています。

運営していく中で、今の子どもたちを見ていると、おそらく8時か9時に晩ご飯を食べていて、子どもの夕食時間が遅いことがすごく気になりました。夕食時間が遅い子どもは寝る時間が10時や11時で、睡眠時間は7時間から8時間程だと思います。

このような「何かできないか」との思いをきっかけに、2020年の9月から、『夕食の子ども食堂』

を始めました。始めた当初は参加者が少なかったのですが、だんだん増えてきて、今では常時150人くらい集まっています。

これまで、支援を必要とする子どもたちのSOSが見えていなかったのですが、子ども食堂に取り組むことで、少しずつ見え始めました。例えばシングルマザーの家庭、お母さんは、仕事・家事・子育てを1人で担うこととなり、おそらく一緒に過ごす時間も限られることもあるんだと思うのですが、忙しい母親に心配かけてはいけないと、何か困っている状況があっても前に出さない子が多くて見えにくいんです。見えないけど、子ども食堂に来ていることで、救われている保護者や子どもがいるんだと感じています。

キッズステーションに来る子ども達にはルールを守ることを必ず伝えていきます。「みんな仲良くする」「思いやりの気持ちを持つ」「物を大切にする」などです。「みんなが楽しく過ごすことが出来るために、みんなが協力する。それ





ファミリースペース富田運営委員会 しゅくだいカフェ

が出来なければキッズステーションには来れないよ」といつも言っています。みんなキッズステーションが大好きでルールを守ってくれます。

初めてキッズステーションに来た子は、友達とのトラブルを私たちに言いつけて解決しようとする子が多いのですが、スタッフは子ども同士のけんかの仲裁はしないで自分たちで話し合っ解決するように促しています。自分たちで話し合っ解決するのは、難しいようですが子ども達も慣れてくるとちゃんと自分で考えて判断することを学んでくれます。子ども同士けんかすることも良いことだと思います。けんかしたときの解決法を知る事が大切だし、子ども達も自分で考えて行動することで社会性が身につくと思います。

**木村：**七田さんのところはどうか。

**七田：**基本、大学生の運営スタッフがメインなので、お兄さん

お姉さんたちが、子どもたちと一緒に遊んだり、ケンカの双方の言い分を聞いたりして、きょうだいみたいな感じで過ごしています。

最初は、子どもが一人で来ていたのですが、そのうちきょうだいを連れてくるようになりました。さらに、同級生も連れて来るようになり、また、その子どもがきょうだいを連れてくるようになり、人数がどんどん増えて、ある学年は近くの小学校の大半の子が来てくれています。

『しゅくだいカフェ』は、自分の意思で来るところなので、基本的に親の送り迎えはありません。子ども自身の意思で行動しているため、自主性も成長していると思います。

少し前まで、すごく落ち着きがなく走り回っている子どもがいました。親御さんがお仕事から帰って来るまで家できょうだいと二人だけの世界で過ごしていました。ボランティアの大学生が「イスに座って宿題しよう。」と根気強く関わることで今は落ち着き、人気者になっています。私自身成長した子どもを見ると、子どもの居場所を作って良かったと思います。

**木村：**きょうだいだけで家にいると、どうしてもお兄ちゃんやお姉ちゃんが下の子の面倒を見るを得なくなります。きょうだい居場所に行けるっていうのがすごく良いですね。

**七田：**きょうだい、居場所に

参加することで、上の子のストレスは軽減されると思います。親も「お姉ちゃんお兄ちゃんなんだから、下の子の面倒を見なさい。」って言うと思うんです。上の子にとっては「下の子のことばかり言って、私はどうなの。」ってプレッシャーですよ。

**木村：**上の子もまだ子どもなのに、荷が重いですよ。

**大杉：**居場所に来ると、その子の世界と、違う子の世界が混ざり合っ、より世界観が広がることになります。学校だけじゃないいろいろな気づきがあるところも良いですよ。

**木村：**子どもの居場所は、身近なところに必要だとつくづく思います。

**大杉：**自分の足で行ける場所が良いですね。

小学校区に一箇所は、子どもの居場所があっ欲しいという思いがあります。私は、地域のコミュニティセンターを使わせていただっていますが、お寺やボクシングジムなど、いろいろな場所の御協力をいただくことで、コロナ禍でも継続して開催しています。

**山本：**昔は子どもだけで、地域の中、どこでも行けましたよね。

**木村：**そうですね。あそこの土地が空いてるから遊ぼうとか。

**山本：**今となっては、絶対に空き家とかダメですよ。「お化けが出る」とか言っ、楽しかったです。

**大杉：**今は、公園でも怒られることがあります。

**木村：**今の子どもたちは、「遊んでも良いよ」という場所じゃな





料理学習 つむぎ

いと、なかなか遊べなくなっていますね。

**山本:**子どもが遊び方を知らないんです。これってすごい問題じゃないですか。心配です。それに最近、すごく感じるのは、ガキ大将がいなくなったということです。ガキ大将は必要なんですよ。

**七田:**社会人になって、正解が分からない仕事をしていく中で、自分一人で答えを出せないんじゃないかと心配になります。

**木村:**自分で考えたり、歩み出したりする経験がないと、大人になった時に、人と関わるために「どうやって話しかけたらいいのかわからない。」みたいなことになってしまいますよね。

**山本:**人間関係を作る一番大事な時期は、小学生の頃だと思うんです。友だち同士との関わり方を学ぶ大事な時期に絶対、学校以外で自由に過ごせる場所が必要だと思います。

**大杉:**そうですね、生きづらい子どもがすごく増えていると実感

します。

**木村:**大杉さんがされているような、中高生や大学生にボランティアに来てもらうとか、地域の中のコミュニティに自然に入れるような居場所も必要ですね。

**大杉:**料理教室にボランティアで来ている大学生と接することで、方向性や、違う世界観が広がって、学校に行けるようになったという子どももいました。

**木村:**お兄さんモデル、お姉さんモデルを見つけたんですね。

**大杉:**学校に行くのは、ちょっと嫌な気持ちもあるし、馴染めないこともあるけど、頑張ってみようと思ったそうです。人とのいろんな距離の取り方や、認め方に気が付いて、少しずつ戻れているとの報告をいただき、ちょっと泣けました。

**木村:**居場所があって良かったって実感しますよね。

**山本:**居場所を継続すると、そこで関わった子どもたちが大きく成長して、また、遊びに来てくれるのが何より嬉しいです。

**木村:**楽しい思いをした場所って、また行きたくなるんです。ずっと何かをしてあげることにはできないけれど、楽しい豊かな時間を感じてもらって、何かの支えとして思い出して欲しいですね。

**大杉:**これから先、何かにつまづくことがあった時にも、子どもの居場所を思い出して訪ねてきて欲しいです。そのために、絶対に居場所が必要だと思います。

**木村:**皆さんが「よし!やろう!」と思った一歩って、実はすごく大きかったと思います。これから「居場所づくりを始めよう」と思っている方たちに、エールをお願いします。

**大杉:**始めるとき、「必要じゃないかもしれない。」「人にどう思われるだろう。」とか、いろいろと考えました。

でも、社協とかに相談しながら少しずつ始めてみると、「必要とされているかもしれない。」「もっとお手伝いしたい。」という思いが強くなりました。子どもたちがどんどん成長していく姿が間近に見えるのはすごく楽しいですよ。ぜひ、始めて欲しいです。

**木村:**「私がやる必要があるのか」という不安は、皆さん共通していると思います。

**七田:**最初はすごく考えると思うんですね。私も、近い人とかに相談したら、「何かあったらどうするの。」ってみんなに反対されました。

これから取り組みたいと考える方にお伝えしたいことは、ちょっとでも始めたいと思う気持ちがあるのなら、まず一歩を踏み出すこ



子育て応援隊!キッズステーションNARUTO 夕食の子ども食堂

とが大切だということです。そして、先に始めている方に、「どうですか。」「どんなことがありましたか。」とか、いろいろな方の経験を最初にどんどん聞いて判断していただきたいです。子どもに携わるのは、本当に素晴らしいことなので、ぜひ、始めていただけたらと思います。

**山本:**居場所づくりを始めようと思った時に、「私は、こういうことがやりたいんだけど、今、集まれる場所も無いし、場所を借りるお金も無い。でもやりたいんです。」と、いろいろな人にすごく熱く語ったんです。すると、「そういうことだったら貸してあげようか。」と一言くださる方が現れて、場所が借りられたんです。熱意は大事です。

最近では、自分がというよりは、皆さんの熱意に押し上げられて動いているように感じています。だから、やりたいことがあるときは、より「こんなことやりたい。あんなことやりたい。」ということを熱く語るべきだと思います。発信すると、いろいろな協力者が現れます。

**木村:**熱意は大切ですね。

**大杉:**子どもの居場所の活動を「お手伝いしたい」という方はたくさんいらっしゃいます。ボランティア

として、少しでも体験していただけたらうれしいです。子どもたちにとっても、新たな方とお話したり、出会えたりする機会になると思います。

**山本:**私のまわりにも地域のために何かしたい方は、結構おいでになるんです。そういう方たちの力が合わさっていくと、すごいんですね。

**木村:**皆さんのお話を聞いたら、「私も何かできるかも」、「手伝えることがあるかも」と感じると思います。

**大杉:**「子どもが小さいので手伝えないんですけど、見に行ってもいいですか。」と、よく問い合わせがあるんです。やり始めたらその方の自信にも繋がると思うんですね。

**山本:**私は、自分の子どもの子育てをしながら、いろいろなボランティアをしました。子育てをしながら地域の活動に参加したことが、

今の形に繋がったと思います。

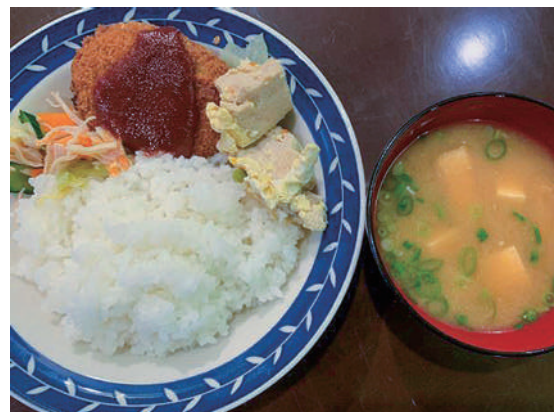
**木村:**「ボランティアに参加してみよう」というスタートがすごい大事ですね。参加したら、「あれっ、楽しかった。私、こういう活動好きなんだ。」っていう気づきがあるかもしれません。なかなかきっかけが得られないのが残念だと思いますが、自分の子どもと違う気づきを学べるという事もすごく大きいですね。

**大杉:**私自身、長女の時は、「お母さんの手伝いするくらいだったら勉強しといて。」というくらい教育ママでした。今はボランティアスタッフとして、娘（三女）と一緒に連れて行って、「いろいろ手伝えてね。」ってお願いしています。

**木村:**活動を通じて、御自身の子育てが変わってきたり、子どもさんもいろいろな刺激を受けたりしたんですね。

**大杉:**勉強会に出たり、いろいろな先生や保護者の話を聞いたりしていたら、自然に変わってきました。

子どもたちも、きょうだいの中で、例えば「ハサミ貸して」って言ったら「イヤ」から始まって揉める



夕食の子ども食堂



んです。

でも、一人っ子だと、「ハサミ貸して」と言って「イヤ」って断られることは皆無なんです。家庭では「どうやったら借りれるんだろ」とか、いろんな方向性からのアプローチって必要ないですからね。そういう対応策を学べるのも居場所だと思えます。

**木村**：確かに、居場所では、学校の先生や周りの大人の目とはまた違う評価の目で見られるので、イヤって言うてもいいんですよね。

**山本**：一人っ子は、うちに来る子どもと比べると、きょうだいみたいな感じになるんです。家では、何も困ることも無いし、子ども同士でおしゃべりする機会もおそらく無いでしょうね。

しかし、キッズステーションに来ると、小さい子には、ちょっと我慢して配慮もするし、大きい子の対応もしないといけない。楽しいときもあるけど、悔しい思いをしながら我慢をすることもある。それって大事ですよ。その他に、参加している子どもの保護者との連携も大切で、お母さんたちに「今日は小さい子たちが来たから、いっぱい我慢しながらでも、ちゃんとお世話していましたよ。」って積極的に伝えるようにしています。

**木村**：保護者と共有できる会話ができるのもいいですね。

**山本**：「今日は〇〇ちゃんに、こんなことされたって言ってます。」と心配するお母さんから、電話がかかってきます。その時お母さんに、「ただ子どもの話を聞くだけ聞いて、思いを受け止めてあげて

欲しい。」って伝えています。そうすると、お母さんがある時、自分の子が見えるように変わっていくんです。「山本さんが言ってくれたとおりだった。」って。本当に全然違います。変わったお母さんたちって、すごく協力的になるんです。お母さんが変わったら、子どももすごく変わるんですよ。お母さんと子どもの変化って一緒に、〇〇のせいにしなくなってきて、友だち関係が良好になるんです。

**大杉**：私は、中学生を職業体験で受け入れています。ある中学生が、「職業体験の時間は短いのに、すごく疲れました。でも、お父さんやお母さんは、毎日、朝早くから夜遅くまで長時間仕事して、本当にすごいついて思いました。家に帰ったら感謝を伝えます。」って言ってくれたんです。それを聞いたスタッフが感動して、翌日「どうだった？」って聞いたら、「家に帰ると、明日も職業体験があるから、早くお風呂に入って寝なさいって言われて、話せませんでした。」としよげていたそうです。大人は大人の考えがあるのと同じように、子どもは子どもで色々と考え、大人を一生懸命見ています。大人も生活があり、急に対応するのが難しかったり、忙しかったりすると思うんですけど、時々立ち止まって、「どんな言葉をかけたら、気持ちが伝わるか」を考えながら、コミュニケーションがとれたらいいな、と思いますね。

**木村**：なかなか余裕がないですよ。山本さんや大杉さんのように

大切なことをはっきりと言ってもらえるのは良いかもしれないです。

**山本**：ズバツと言ってくれる人が、大人のまわりに居ないんですよ。

**木村**：最後に、「これは言っておきたい」ということがあればお願いします。

**七田**：「子どもの居場所をやりたい！」という方のお手伝いをしたいと思います。実はこの間、「地元でやってみたいので、お話しを聞かせてください。」と聞きに来られた方がいました。一人で始めるのは、ちょっとハードルが高いと思うので、これからアドバイスをしながら、スタートするにあたってのお手伝いができたらいいなと思います。

全国に7拠点ほどある『しゅくだいカフェ』は、月1回、必ずオンラインミーティングをして、いろいろな相談や情報交換を行っています。居場所を始めた後も、「こんなことがあった」と、相談する場が大切だと思います。

**木村**：心強いですね。ぜひ、たくさんの方のサポートをしていただければと思います。

本日は、「子どもの居場所づくりをはじめたきっかけ」について、3団体の代表の方々に、貴重なお話しを伺うことができました。これから「子どもの居場所づくりを始めてみたい」、「支援したい」と思っている方々へのエールになったと思います。

ぜひ、今後とも子どもの居場所づくりの推進に、御協力いただけますようお願いいたします。

本日は、ありがとうございました。



# 安全で安心な 居場所づくり

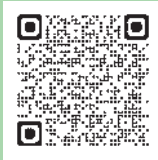
..... 情報 .....



## 相談窓口

徳島県民生委員児童委員協議会  
あなたの街の民生委員  
(民生委員児童委員協議会の所在地  
事務局)

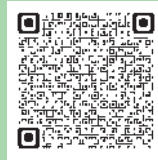
徳島県徳島市中昭和町1丁目2  
徳島県立総合福祉センター 3F  
TEL.088 (654) 4461(代)  
FAX.088 (654) 9250



徳島県

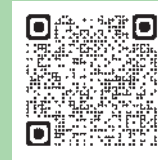
徳島県未来創生文化部  
次世代育成・青少年課  
こども未来応援室

徳島県徳島市万代町1丁目1番地  
徳島県庁 2階  
TEL.088 (621) 2715  
FAX.088 (621) 2843

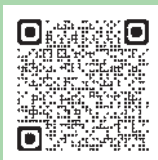


社会福祉法人  
徳島県社会福祉協議会

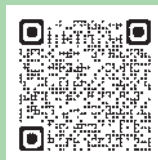
徳島県徳島市中昭和町1丁目2  
徳島県立総合福祉センター 3F  
TEL.088 (654) 4461(代)  
FAX.088 (654) 9250



徳島の市町村社会福祉協議会  
(徳島県社会福祉協議会)



徳島県の市町村一覧



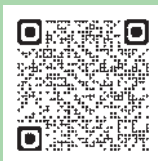
徳島県

徳島県  
はぐみ支援ポータルサイト  
とくしまはぐみネット



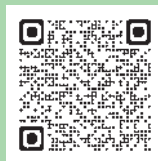
国立大学法人  
鳴門教育大学

徳島県鳴門市鳴門町高島  
字中島748番地  
TEL.088 (687) 6000(代)



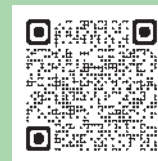
特定非営利活動法人  
フードバンクとくしま

徳島県徳島市昭和町3丁目35-2  
労働福祉会館ヒューマンわーくびあ  
TEL.088 (679) 1919  
FAX.088 (679) 1920



NPO法人  
徳島子ども食堂ネットワーク

徳島県徳島市南佐古七番町8-30  
第二辻マンション103号  
TEL.090 (6282) 9550  
代表 佐伯 雅子様





## 衛生管理

公益社団法人  
日本食品衛生協会



厚生労働省  
子ども食堂における  
衛生管理のポイント



厚生労働省



## ボランティア/保険

とくしま  
ボランティア推進センター  
ボランティア情報

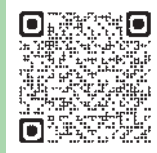
徳島県徳島市東沖洲2-14  
沖洲マリンターミナルビル 1F  
(とくしま県民活動プラザ内)  
TEL.088(664)8211  
FAX.088(664)5345



## 助成金

一般財団法人  
チャイルドライフサポートとくしま

徳島県板野郡板野町黒谷字東原33番地5  
TEL.088(679)1707  
FAX.088(679)1708



とくしま「子どもの居場所づくり」  
応援サイト

( 社会福祉法人  
徳島県社会福祉協議会 )

徳島県徳島市中昭和町1丁目2  
徳島県立総合福祉センター 3F  
TEL.088(654)4461(代)  
080(8633)1657(直通)  
FAX.088(654)9250



## 危機管理

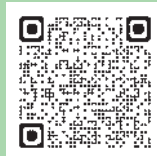
徳島県

徳島防災navi



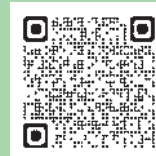
徳島県

安心とくしま  
(徳島県防災・危機管理情報)



徳島県

徳島県内の  
子ども食堂について



# 徳島県 「子どもの居場所」づくり 推進ガイドライン 令和元年5月29日策定

## 1 目的

このガイドラインは、徳島県における民間主導により展開する「子どもの居場所」づくりの取組みを各地域に広げるため、県民、関係団体、県及び市町村が連携・協力し、持続可能な運営とする仕組みをつくることを目的とする。

## 2 「子どもの居場所」の定義

「子どもの居場所」とは、地域の大人との継続的な交流ができる、子どもたちにとって安全で安心な居場所であり、信頼関係のもとでの様々な活動を行う中で、すべての子どもたちが夢や希望をもって健やかに成長していける場である。

原則として、18歳に満たないすべての子どもや家庭を、地域で見守る子どもたちの居場所である。

### (1)民間主導で進められる「子どもの居場所」

- ・無料または安価で栄養のバランスが良い食事や温かな団らんを提供する子ども食堂・ユニバーサルカフェなど誰もが参加できるもの
  - ・子ども会、青少年活動団体、プレイパークなど
- (2)子どもたちの放課後の生活を支える施策  
放課後児童クラブ、放課後子供教室、地域未来塾、児童館、子どもの生活・学習支援事業など
- (3)その他、地域の実情に合わせた多様な「子どもの居場所」

## 3 「子どもの居場所」の機能・役割

### (1)地域の中での「子どもの居場所」

- ・「子どもの居場所」は、子どもの人権に十分に配慮し、子ども一人ひとりの人格を尊重し、子どもに影響がある事柄に関して、子どもが意見を述べ参加できるようにする。
- ・子どもたちに、安心できる居場所を提供し、地域で見守りを行う。
- ・子どもが遊び、学習活動及び読書活動などを自主的に行える環境を整え、必要な支援を行う。

### (2)日常の生活支援

- ①子どもの健やかな成長と健康を保障する
- ・食事や学習、会話、レクリエーション活動を通して生活習慣を身に付けたり、周囲の人との関わる力を身に付ける。
  - ・信頼できる大人と活動をともしの中で、自信や意欲、自己肯定感など心理的な安定をはかる。
  - ・「子どもの居場所」が、子どもたちにとって安心できる真の居場所となるよう努める。
- ②社会のルール等を身に付ける
- ・年齢の違う子どもたちと一緒に遊ぶ機会を提供し、子どもたちが集団と一緒に過ごす中で、協力及び分担や決まりごと等の必要性を理解し、主体的に行動できるようにする。
  - ・手洗いやうがい、持ち物の管理や整理整頓等の基本的な生活習慣が身に付くように支援する。
  - ・子どもたち自身が自分たちで活動を計画したり実行したりする機会をつくり、子どもの自主性や意欲が高められるよう支援する。
  - ・子どもの年齢に応じて、子どもたち自身が調理をする機会をつくり、自分で調理ができるようにする。

### ③共食機会の確保

- ・子どもの孤食や欠食を防ぎ、地域の人々と一緒に食事を楽しむ団らんの機会を提供する。

### (3)保護者の子育て支援

- ・仕事などにより時間的に余裕がない保護者に、少しでも子どもと向き合う時間を持ってもらえる工夫を行う。
- ・子育て等について保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心掛ける。
- ・仕事などで家庭にいない保護者が安心できるよう、家庭で子どもだけで過ごす時間が少なくなるよう工夫を行う。

### (4)配慮を必要とする子どもへの対応

- ・家庭に事情のある子どもの地域における見守りの場として、子どもがより参加できるよう、関係機関や地域などと連携する。
- ・子どもや家庭状況について特別な支援が必要であることの早期発見に努め、把握した場合は、市町村・福祉事務所・児童相談所などの行政機関につなぐ等の対応を行う。

### (5)地域の人々と交流できる機会の提供

- ①遊び、学び、触れ合い
- ・製作活動や伝承遊び、地域の文化にふれる体験等の多様な活動や遊びを工夫する。
  - ・子どもが身近なテーマを学び、学ぶことの楽しさを感じる機会を提供する。
  - ・地域の人たちと一緒に遊んだり、食卓を囲んだりして、交流を深める。
  - ・保護者や学校、地域の人たちに活動について理解を深めてもらうため、活動や行事に参加する機会を設ける。

### ②食育

- ・食事を提供する場合は、栄養バランスを考慮する。
- ・自分で調理をすることで、行事食や郷土料理、地産地消、フードロスなどについて知る機会を提供する。
- ・食文化について知るなど豊かな食を育む機会を提供する。

## 4 子どもの安全対策・衛生管理など

### (1)安全管理・ケガの予防(マニュアルの整備、保険加入)

- ・運営者は、事故やケガの防止に向けた対策や発生時の対応に関するマニュアルを作成する。
- ・運営者は、開設時間中は、現場に常時、責任者を配置する。
- ・運営者は、「子どもの居場所」の安全・安心を高め、様々なリスクに備え、損害賠償保険や傷害保険等に加入する。

### (2)衛生管理(食品衛生・アレルギー対策・感染症対策等)

- ・運営者は、手洗いやうがいを励行するなど、日常の衛生管理に努める。
- ・運営者は、調理した飲食物を提供する場合には、事前に保健所に相談する。
- ・運営者は、施設設備や食事等の衛生管理を徹底し、食中毒の発生を防止する。
- ・運営者は、賞味期限や消費期限を遵守する。
- ・運営者は、飲食物を提供する場合には、食物アレルギーの有無について確認するなど、安全に配慮する。

### (3)防災・防犯対策

- ・責任者は、管轄の消防署や警察と連携を図り、

事前に非常口、避難経路及び不審者情報等について確認するなど、子どもの安全確保に努める。

### (4)個人情報の秘密保持

運営者は、子どもの利益に反しない限りにおいて、保護者や子どものプライバシーの保護、活動中に知り得た事柄の秘密保持に努める。

## 5 地域の実情に応じた「子どもの居場所」づくりの推進支援

地域の実情に応じた「子どもの居場所」づくりを、フードバンク・NPO法人等の民間団体・学校・PTA・地域住民・企業・農家・社会福祉協議会・行政等が連携・協力し、それぞれの立場において主体的に取り組む必要がある。

その取組みを、県内各地に広げ、効果的で持続可能な運営とするため、県や市町村は、地域のニーズに応じた支援策を講じる。

### (1)「子どもの居場所」を運営したい人への支援

県は、家庭の事情で、放課後や休日等に一人で過ごす子どもたちに居場所を提供する子ども食堂、学習支援及び体験活動などの活動の充実を図るため、運営団体等への支援を行う。

- ・運営メンバー・ボランティア人材育成
- ・開設・運営支援講座(食品衛生・食育)
- ・支援ニーズの把握
- ・先進地域における活動プログラムの調査・分析
- ・一元的な相談窓口
- ・助成金等活用支援

### (2)広域的な支援バンクを設置

県は、既存の社会資源を有効活用するための広域的な支援バンクを設置し、市町村等が実施する「子どもの居場所」づくりを推進する取組みを支援するため、情報提供や広域的なマッチングなどを行う。

#### ①場所の提供

社会福祉施設、学校の余裕教室、公民館、児童館、商店街の空き店舗など

#### ②食材の提供

企業・商店街・スーパー・産直市・農協・漁協・フードバンクなど

#### ③資金等の提供

企業・団体・個人など

#### ④機会の提供

- ・放課後児童クラブ・放課後子供教室・地域未来塾などと子ども食堂との連携
- ・ユニバーサルカフェ・子ども食堂などでの学習支援など

### (3)市町村における支援ネットワークの構築

市町村は、「子どもの居場所」づくりが身近な地域で実施されるよう、活動情報の一元化や公共施設における場の提供など、運営団体等の支援に努める。

#### ①広域的な支援バンクの活用

#### ②運営団体、学校、家庭、地域間の連絡調整

#### ③安全管理体制の整備

福祉事務所・児童相談所・警察・保健所・社会福祉協議会等との連携

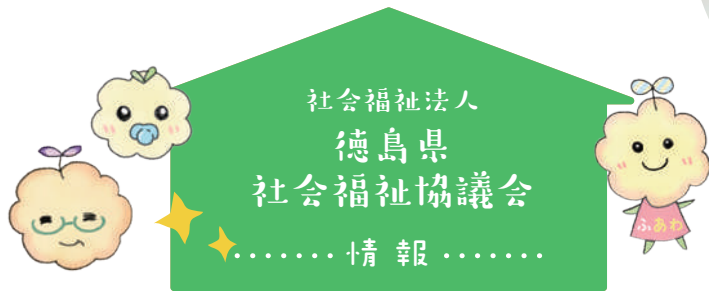
#### ④周知・広報

- ・学校・地域住民への理解促進

子どもの貧困対策にとどまらず、すべての子どもと家族の居場所であり、地域の人々が交流する場であることへの理解。

- ・市町村等の広報誌や自治会の回覧による活動予定の周知・協力依頼





## 徳島県社会福祉協議会は 地域福祉の推進に 取り組んでいます

徳島県社会福祉協議会（社協）は、全国や県内市町村の社協をはじめ、民生委員・児童委員、社会福祉施設などの福祉関係者・関係機関とのネットワークにより、世代や分野を問わない相談や、人と社会がつながり、そして参加できる仕組みづくりを県域で推進するとともに、多様な担い手の確保・育成などを通じた地域福祉活動の普及・促進に努め、「福祉のまちづくり」の実現に取り組んでいます。



社会福祉法人 Tokushima Social Welfare Council

## 徳島県社会福祉協議会

は **こちら** をご覧ください



自分たちのまちをよくするために  
地域福祉活動に参加したい。  
あなたの想いは絆となって広がって  
いきます。



この冊子は「とくしま子どもの居場所づくり推進基金」を  
活用して作成しました。



## わたしのいばしょ みんなのいばしょ 2022

2022年10月発行

発行：社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

お問い合わせ先

〒770-0943  
徳島市中昭和町1丁目2 徳島県立総合福祉センター 3階  
社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会  
TEL.088-654-4461 (代表)  
TEL.080-8633-1657 (子どもの居場所づくり担当携帯)

とくしま子どもの居場所づくり応援サイト  
<https://t-ibasyo.com/>

